

令和3年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立宍道中学校）

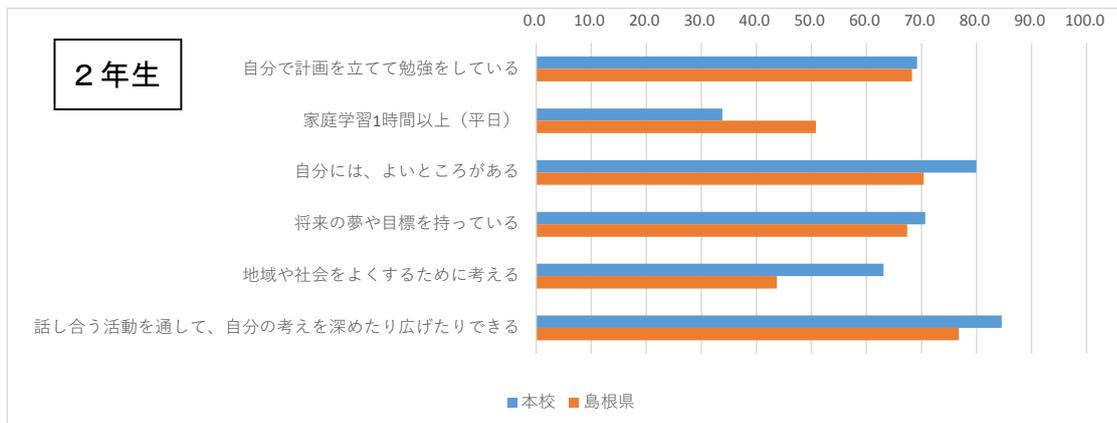
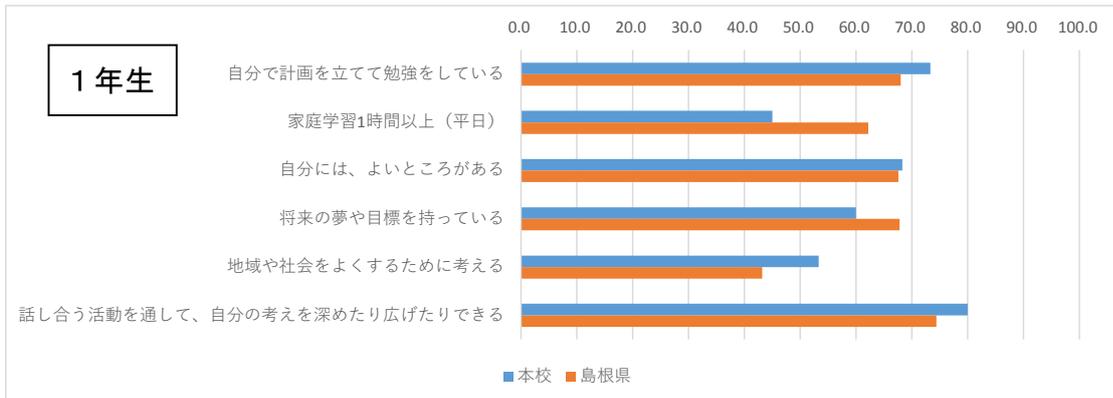
(1) 学力調査結果から見られた成果と課題（○：成果 ●：課題）

1年国語	○漢字、文法、歴史的仮名遣い等に関する言語事項及び文章を読むことに関しては、平均正答率がそれぞれ市町村、県、全国を全て上回っている。 ●文章を書く力が伸びるように、また主体的に学習に取り組めるように指導を工夫する必要がある。	2年国語	○基礎・活用とも、市・県を上回っている。領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域において市、県、全国の平均正答率を上回っている。 ●「書くこと」について、県・全国平均を下回っているため、授業でも書く時間を補償し、指導を工夫する必要がある。
1年数学	○比例・反比例の基本的なことがらや平面図形の基本については、県の平均正答率を上回っている。 ●思考力をはかる問について、県の平均正答率を下回っており今後の課題となっている。	2年数学	○基礎および活用、両方において市、県の平均正答率を上回っている。また領域別では、図形領域において市、県の平均正答率を大幅に上回っている。 ●記述形式の問題が市、県の平均正答率を下回っており、今後の課題と思われる。
1年英語	○英文を読み設問に答えたり、選択問題で正答を選んだりするなど、知識・技能を問われる問題は県並みの平均正答率である。 ●思考力を問われる問題について、県の平均正答率を下回っており、書く能力を伸ばしていく必要がある。	2年英語	○基礎・活用とも市、県平均を上回っている。また領域では読むことにおいては全国の平均正答率を上回り、聞くことにおいて市・県の平均正答率を上回っている。 ●書くことについて、市の平均正答率を下回っており、今後の課題である。

(2) 生活意識調査から見られた成果と課題（○：成果 ●：課題）

1年	○「自分で計画を立てて勉強している」「話し合い活動で自分の考えを深めたり広げたりできる」という項目に関して肯定的に答えた生徒の割合が高い。 ●家庭学習を平日1時間以上している生徒の割合が、県平均の割合と比べて低い。学習した内容が定着するよう家庭で復習することを習慣化できるようにしていきたい。	2年	○「自分には、よいところがある」の肯定的なポイントが高く、そのことが学習面や生活面の様々なところへ良い影響をあたえている。 ●「平日の家庭学習1時間以上」が県平均と比べて、20ポイント近く低くなっている。
----	---	----	---

(3) 意識調査(教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 1年生 61名 2年生 69名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。